

経営比較分析表（平成29年度決算）

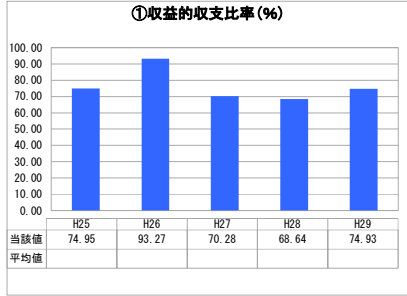
千葉県 習志野市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Aa	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	94.83	73.45	2,072

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
172,632	20.97	8,232.33
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
163,561	15.18	10,774.77

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



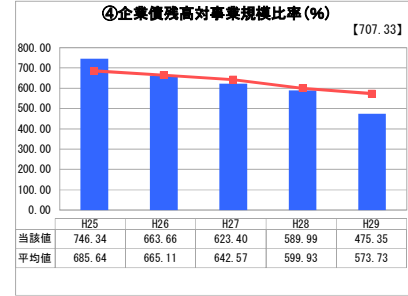
「単年度の収支」



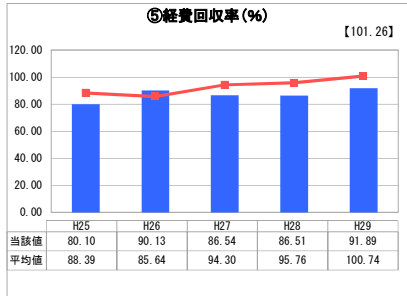
「累積欠損」



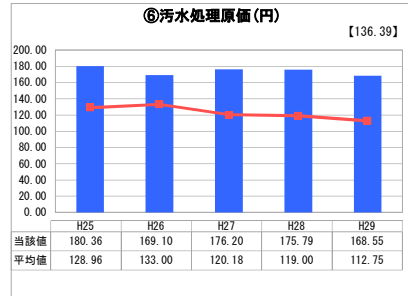
「支払能力」



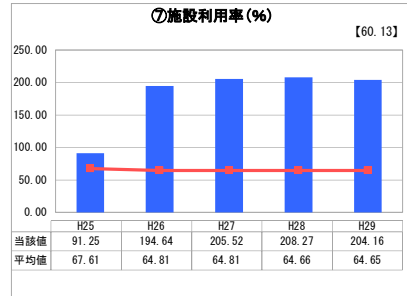
「債務残高」



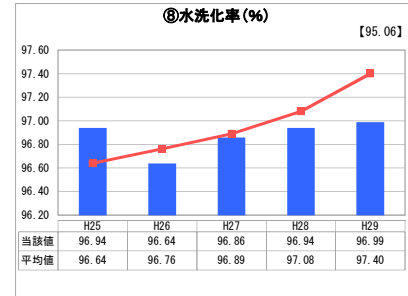
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」

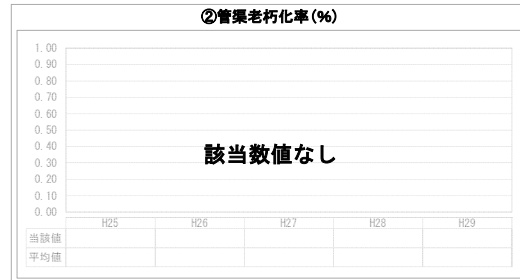


「使用料対象の捕捉」

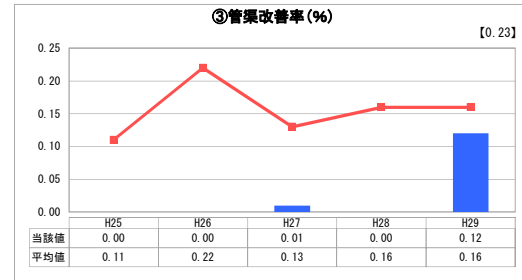
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率について、H26に使用料改定を実施し、経営改善に向けた取り組みが成果を上げています。なおH27から総務省通知により雨水処理元金償還に対する繰入金を営業収益から資本的収入に振り替えたため相対的に低くなりました。

④企業債残高対事業規模比率について、債務残高削減のため、今後も債務の償還を積極的に進めていきます。

⑤経費回収率について、H25については下水道事業債の繰上償還を実施した影響で低くなっています。H26以降は、津田沼浄化センターの運営費が年々増加しているため低くなってきていましたが、H29は使用料収入の増加と汚水資本費の減等の理由により、増加に転じました。

⑥汚水処理原価について、本市の約半分の地域は合流管で整備していることから比較的不明水も多くなる関係上、類似団体や全国平均に比べて高い数値となっています。

⑦施設利用率について、本市津田沼浄化センター以外の処理場に接続している地域があることから、類似団体よりも高く、また100%を超えています。

⑧水洗化率については高い数値で推移しております。今後も水洗化普及を促進していきます。

2. 老朽化の状況について

公共下水道管の未普及対策を進めてきましたが、標準耐用年数50年を経過する管渠が、今後10年間で約23%、20年間で約50%となる見込みであり、老朽化は確実に進んでいきます。

H31年より地方公営企業法を適用し、資産状況を把握する中で、予防保全的な施設の管理や改築・更新を行ってまいります。

全体総括

経営指標については、類似団体と比較しても平均的な数値となっています。しかし、管路や処理場、ポンプ場の老朽化が進んでいる状況から、施設の計画的な更生・改築が求められます。

また、将来の改築・更新を見据えた適正な使用料算定を行ってまいります。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。